

平成 27 年度 焼津市自治基本条例 まちづくり市民集会 大ワールドカフェ 記録

平成 27 年 12 月 19 日（日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
焼津市総合福祉会館 ウェルシップ 多目的ホール

◆テーマ：『縁』とつながりで育む「住み続けたい焼津」

～多様な幸せを生み出す「ホンモノの地方創生」にむけて

1. 開会（オープニング）

○開会あいさつ（関富美子 まちづくり市民集会 実行委員長）

- ・まちづくり市民集会は、昨年 10 月に施行された自治基本条例第 17 条に 1 年に 1 回開催することが定められており、今年度で 2 回目となる。この条例では、市民、議会、行政のトライアングルで、『みんなが、いつまでも、住み続けたいまち』を、目指すまちの姿としており、この三者がそれぞれの立場で、地域課題の解決に対話を通して、お互いを理解し合い、対等にまちづくりを推進させることを基本理念としている。
- ・今年は、『縁とつながりで育む住み続けたい焼津』を、この大ワールドカフェのテーマとした。私は、縁というものは生きものと考えており、育てるものだと思う。ご出席の皆様は、よほどの縁があってめぐり合い、同じテーブルを囲むことになった訳で、このご縁を大切に、フランクにホンネの意見で、LOVE 焼津の心で、時間の許す限り話し合ってください、縁がまちづくりの丸い円に育っていけば素晴らしいと思う。
- ・私共、実行委員会は、今年の 7 月から 5 回の会議を重ねてきた。いわば手作りの会なので、進行上、行き届かない点もあるかもしれないが、お許しいただきたい。
- ・行政、議会、市民の話題提供、アドバイザーの松下教授のお話を聞き、仲間との対話を楽しんでいただきたい。そして、終了時には、市民集会に参加して良かったと、焼津をもっと住み続けたいまちにしたいと感じ、何ができるか考える気付きのひとつになればと思う。

○市長あいさつ（中野弘道 市長）

- ・本日は年末の大変お忙しい中、まちづくり市民集会大ワールドカフェに沢山の皆様にご参加いただき、心から御礼申し上げたい。1 回目の昨年が 64 名、今年度は 125 名の参加ということで、相模女子大学の松下先生のご指導の中、相模女子大学、県立大学の学生、実行委員、様々な市民の皆様、市議会議員の皆様にもご参加いただいている。
- ・市民、議会、行政が情報を共有して、それぞれの役割と責任を認識し、お互いに尊重し合い、「みんなが主役のまちづくり」を進めていくことがとても重要であると考えております。私は、毎年 1 文字を決め、市政を運営している。1 年目が「創」、2 年目が「展」、今年度は「発」、来年度は「共」としている。まさにこの市民集会の主旨と同じ、それぞれの役割と責任を認識し、それぞれが尊重し合い、手に手を取って市政運営を進めていきたい。
- ・今回は、「縁とつながりで育む“住み続けたい焼津”」をテーマに、前半は、行政・議会からの報告と、若者・地域企業・働く女性のそれぞれの立場から発表をしていただき、後半では、ワークショップにより参加者の皆さん同士で意見交換をしていただきます。
- ・本日の『まちづくり市民集会「大ワールドカフェ」』が、まちづくりを考えるきっかけとなることを期待し、私の挨拶とさせていただきます。

○市議会議長あいさつ（石田善秋 焼津市議会議長）

- ・自治基本条例によって、市民、議会、行政の三者が目指すまちの姿を共有することで、よりよい自治を進めていくことができるようになった。一方、市議会においても、昨年3月に焼津市議会基本条例を制定し、新しい地方自治の時代における市議会としての基本理念、基本方針を定め、市民、行政及び議会の関係を明らかにした。この条例は、議会が市民の負託に応え、もって市民の生活及び福祉の向上並びに市政の発展に寄与することを目的としている。
- ・昨年度の市民集会では、私を含め8人の議員が参加したが、今年度は市議会も主催者の一員に加わり、市議会としての報告の場を与えていただいた。市議会議員が21名おり、1名が体調の都合により欠席となったが、今日の20のテーブル全てに1人ずつ議員がいることになる。
- ・最後に、今後とも心豊かに暮らせるまちづくりの実現に向けて力強いご協力ご支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2. 話題提供：焼津市の地方創生の取り組みと「まち・ひと・しごと」の市民のホンネ

(1) 行政から：焼津市の地方創生の取り組みについて

「焼津未来創生総合戦略」について（焼津市未来創造部政策企画課 飯塚真也 課長）

- ・焼津未来創生総合戦略については、平成26年12月に国の動きとして「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略」が示され、焼津市でも翌年1月から戦略の策定を行ってきた。人口減少社会への対応、東京一極集中への対応として、地方への人の流れをつくることが主旨となっている。
- ・「焼津市人口ビジョン」は、人口分析を行い、将来の目標人口を定めたものである。その目標を達成するための戦略として「焼津市創生総合戦略」で、平成27～31年度の5ヶ年計画となっている。
- ・「焼津市人口ビジョン」は、調査・分析から課題を整理し、基本方針を定めている。将来の目標人口の推計では、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によれば、何も対策を打たなければ、2040年には焼津市の人口は11万9千人あまりまで減少するとされている。
- ・現状分析として、焼津市の人口の動きは、出生者数が減り、死亡者数が増えているため、自然減となっている。社会増減では、転出者は変わらないが、転入者が減っており、社会減の状況にある。東日本大震災の影響もある。産業構造、住民意向等についても分析している。高校生の調査では、住み続けたいという回答が低く、対策が必要である。
- ・これらの現状分析と課題整理、それらへの対策により、将来目標人口は、社人研の推計では2060年に9万5千人あまりまで減少となっているところを、2060年に12万人を目指すとしている。合計特殊出生率を現状1.54から2020年には1.75、2040年は2.10を目指す。
- ・「焼津未来創生総合戦略」では、基本目標を5つ設定している。「1. しごとをつくり、安定して働けるようにする（雇用）」、「2. 新しい人の流れをつくる（移住・定住・交流）」、「3. 若い世代が安心して結婚・出産・子育てができるようにする（子育て）」、「4. 人と人がつながりあい、時代にあった持続可能なまちをつくる（地域連携等）」、「5. 若者とともに未来のまちをつくる（若者との共創）」で、5番目の「若者とともに・・・」は焼津市オリジナルの目標である。

- それぞれの基本目標に、施策の基本的方向、施策があり、具体的事業が設定されている。例えば、基本目標2の施策3の「焼津流おもてなし戦略の推進」の施策②「市の魅力の映像発信」では、具体的事業として「YFS(Yaizu Film School)」という市民が映像で焼津の魅力を情報発信する取り組みが始まっている。基本目標5の若者との共創では、若者の感性が溢れる賑やかなまちづくり、ということで、10月にオープンした静岡福祉大のサテライトキャンパス、若者会議開催支援等の具体的事業がある。
- 「焼津未来創生総合戦略」では、行政だけではできない事業も多く盛り込んでいる。市民の皆様、市外から来られた方々とも一緒にこの総合戦略を推進していきたいと考えている。

(2) 議会から：焼津市議会の新たな取り組みについて

市議会の議会改革の取り組みと焼津市のまちづくり（焼津市議会 議会改革検討特別委員会 松本修藏 委員長）

- 今日若い方も多く参加されているので、最初に議会の仕組みについて簡単に説明したい。市議会議員は市議会を構成し、議決機関として市長が市政を行う上で必要な予算や条例等を審議し、決定している。市長は執行機関として議会とともに住み良い豊かなまちをつくるために市政を進めている、市長と議会は市政の発展と市民の福祉増進のために活動している。
- 議会の場所は大井川庁舎にあり、昨日まで市議会が開かれていた。市議会には定例会と臨時会があり、定例会は市長が招集し、条例で年4回と定められている。臨時会は市長が招集する場合と、議長が議会運営委員会の決定を経て要求する場合等がある。
- 本会議は議員全員による市議会の最高の会議で、提案された全ての議案について審議する場である。議会の審議内容は多岐にわたるため、いくつかの部門に分け、専門的・効率的に審査するために委員会がある。委員会には議会運営委員会、常任委員会、特別委員会がある。
- 議員一同、議会の役割であるチェック機能を強化し、行政サービスのさらなる向上を目指し、皆様のご期待に応えられるよう努力している。
- 焼津市議会の議会改革については、地方分権時代を迎え、自治体の自主的決定と責任の範囲が拡大しており、市議会が市民の代表機関として地域の発展と福祉の向上に果たす役割は今後ますます大きくなっていく。それにふさわしい議会のあり方、議会の機能の充実を図る方策について調査研究を行うため、平成23年に議会改革検討特別委員会が設置された。
- この委員会では、1つめに、議会の情報公開の推進として、開かれた市民参加の議会。2つめに、議員個々の能力を向上し、自由な討論ができる公平公正な議会運営の仕組みづくりの推進。3つめに、二元代表制において市民本位の立場から執行機関の監視・評価を適切に行い、政策提案を行う仕組みづくりの推進と議会事務局の充実。
- 具体的取り組みとしては、本会議のインターネット配信、議案に対する各議員の賛否の公開等を行っている。また、積極的に政策提案をしていくための体制づくりとして、各常任委員会の中でテーマを決め、調査、研修等を行い、市に提言書を提出することとしている。これまでに、総務文教委員会では新公会計制度をテーマとした提言、市民厚生委員会では保育料の軽減等に関する提言、建設経済委員会では焼津の食を活かす取り組み等についての提言を行った。
- 議会改革検討特別委員会は、条例先行型ではなく、できることから始める改革先行型の考え方の下に具体的事項を検討し、解決策を提案、実行してきた。その集大成として、議会基本

条例の制定に取り組み、26年4月に施行された。今後とも不断の議会改革を行い、市民、行政とともにより良いまちづくりを行っていききたい。

(3) 市民から：「まち・ひと・しごと」の市民のホンネ、市民の挑戦や思い

①若者の立場から（わかもののみち・焼津 土肥潤也さん、岡村幸香さん）

- ・静岡県立大学3年。わかもののみちの活動を行っている。わかもののみちの定義を13～25歳としており、中高生を主な対象としている。高校生が進学や就職で出ていってしまったら取り返しがつかないので、まちから出ていく前に地域に愛着を持ってもらおうと活動している。
- ・「なぜ若者だけなのか？」とよく聞かれるが、若者は大人がいると、なかなか発言しにくかったり、意見を言いにくかったりする。若者だけのまちをつくりたいわけではなく、若者の声を尊重するまちをつくりたいと考えている。
- ・なぜ若者のまちが必要かということでは、3つの観点がある。1つは、18歳選挙権の実現に関して、政治は学校ではなく実際のまちで行われているので、まちと関わる中でまちの担い手を育てるという点。2つめは、人口減少への対応として若者が早い段階からまちと関わることでまちへの愛着を高めていくということ。3つめに、ヨーロッパの若者政策には「若者は社会の閉塞感を打ち破ることができる」、「未来への意思決定には若者が参加する必要がある」と書かれているが、中高生などの若者はそういうところにはいない。しかし、その決定を受けて生きていくのは、今の中高生などである。
- ・その中で、僕が大切にしているのは、「私からはじまるまちづくり」ということ。まちのことというのは、自分のこととして考えられないところがあるが、自分がまちでこういうことをしたいから始めることで、少しずつまちの課題に近づいていければと考えている。1人がやりたいと思っていることも、他の人もやりたいと声を上げればノードになるし、若者も社会の形成主体になっていく。
- ・今年7月、「わかもののみち・焼津フォーラム」というイベントを行った。高校生、大学生や上は70代からの色々な人とどうしたら焼津は若者にやさしいまちになれるか？ということ考えた。今日はそのイベントに参加した高校生に話をしてもらいたい。

（藤枝明星高校3年の岡村幸香さん）

- ・7月19日に行われたフォーラムで出た主な若者の意見を紹介したい。
- ・「若者が自由に集まれる場所がほしい」、「他の学校に友達がほしい」という意見があった。北欧などでは「ユースセンター」という施設が一般的にある。若者が集まり、意見交換をしたり遊んだりするところ。焼津市にはそういう場所があまりない。
- ・「通学路でのあいさつが普通になっている」というのは、特に高校生は学校と家の行き来が中心で、地域とのつながりがなくなってきている。こういう意見からは、若者同士だけでなく、地域の人とも積極的にコミュニケーションを取りたがっているのかなと感じた。
- ・「商店街を元気にしたい」では、「自分が店を開きたい」という意見もあった。シャッター商店街などとも言われるが、若者が自分で変えていきたいという思いもある。
- ・「他の人にも自慢できるまち」には色々な意見があり、「若者が企画するみんなが楽しめるイベント」では、世代を越えたスポーツ大会や音楽イベントを自分が企画してたくさんの人と楽しみたい、公共交通機関を充実させたい、日本語だけでなく多言語での案内サービスを充実させたらという意見もあった。

- 今までのことをまとめると、私も藤枝の高校に通っていて、地元の焼津との関わりが薄くなっているところもある。これらの意見を見ると、中高生は地域に関心がないかと思うとそうではなく、自分が焼津を元気にしたいとか、自分ももっと楽しみたいと思っている。世代を越えて、経験豊かな方とも話して、色んな知識を身につけたい。大人の方からは経験という面から応援していただきたい。

(土肥さん)

- 力強いメッセージを感じたと思う。若者はまちに関心がないように見えるが、小学生の頃までは色んな所へ行ったりしていたのが中高生になるとなくなる。その理由は受け身の場が多いからだと思う。地域の人が若者を動員のように見るのではなく、若者も主人公であるということから、若者が何をしたいかということにも耳を傾けてほしいと思う。
- 今、福祉大のサテライトキャンパスについて話し合っているが、若者たちがどういうことをしたいかということを中心とした場所にしたい。

(松下先生)

- 去年の市民集会でも若者の話が出たが、焼津市の総合戦略や今年の市民集会に早速、若者がテーマとして出たというのは議論が少しずつ進んでいることを感じる。2人から説明があったように、若者は大きな課題。質問だが、今の話でも大事なことは、若者の居場所と出番をどうつくるかということ。愛知県新城市でも若者向けの取り組みがあり、それも見てきたと聞いているが、感想を聞きたい。

(土肥さん)

- 先月、新城市の若者議会という取り組みについて話を聞いてきた。市の人々が積極的に若者の意見を取り入れようとしていた。図書館の郷土資料室を高校生の勉強スペースにできるようにしたいという意見に最初は反発もあったが、何度も話し合っていくうちに、思いつきの考えでないと理解され、実際そうになっていったという話を聞いた。

(松下先生)

- 様々な若者の今までと違う発想を取り入れていくということ。ショックだったのは、焼津市の高校生の半分以上は住み続けたくないと答えたということ。本当だろうか。

(岡村さん)

- 特に理由があるわけではないが、大学なら首都圏に行くという子が多い。焼津への愛着が強いのは問題だと思う。

(松下先生)

- 色んな取り組みがあると思うが、居場所と出番も愛着を高めていく方法になると思う。

②地元企業の立場から（かまぼこ屋の若旦那衆 服部隆史さん）

- 大阪出身で、結婚を機に焼津に来て8年になる。焼津市かまぼこ商工業組合の青年部で、同世代の仲間と「焼津かまぼこ屋の若旦那衆」というのを結成し、イベント等の活動を行っている。焼津の練り製品を製造の後継者で、仕事上の悩みも重なるところもある。一番の悩みは、どんな人がどのくらい練り製品を食べているのかとか、焼津の練り製品のブランド力とかがよくわからないこと。
- 自分たちが焼津の練り物やとして何ができるのか4人で相談し、考えた。焼津では、30年ほど前までは大小100軒ほどの練り物屋があったと聞いているが、最近は30軒くらいと

約7割減っている。今も年々やめるところがある。理由は、後継者がいないとか技術の継承がうまくいかないなど。自分たちとしては焼津の文化であり練り物をなくしたくないという強い思いがある。

- かき入れ時は冬で、今、フル稼働の状態。お節料理や鍋物、おでんに使ってもらえることが多いが、最近はお節料理も洋風化するなど、練り物の出番が減っていき、年間の消費量も減りつつある。そういった悩みの多い環境の中で、悲観的なことを言っても仕方ないので、できることから始めようというのが私たちの活動。
- 最初にやろうとしたのが、お客様一人ひとりにアプローチしようということ。私たちは市場や問屋、商社を相手にものを売っていて、実際に食べてくれている方々の顔は見えていなかった。それをなんとかしたいと対面販売でもものを紹介して食べてもらおうということから始めた。今年から活動を始めて、市内のお祭等でも出店し、自分たちでつくった練り製品を食べていただくという機会をつくった。特に子ども達とか若い世代の方が来るイベントに出店している。おでん以外の食べ方も提案したりしている。
- 市外でも活動していて、焼津の練り製品を知っていただくという地道な活動を積み重ねていくことが一番近道だろうと続けてきている。揚げたてを食べていただいたり、開発中の製品を紹介したりもしている。今年は、焼津市のふるさと納税の返礼品として、練り物のセットをつくった。
- 活動を通して得たものがたくさんある。各地でイベント出店すると、同じような思いをもつ同世代の人達との出会いで縁が広がっている。これは自分たちから動こうと一歩踏み出したから得ることができた。こうした出会いから活力を得たりしている。
- 事業を営んでいる以上、雇用を創出し、利益を出して納税するということが焼津に対する一番の貢献であり、恩返しと思っている。焼津の人の支えがあっての事業なので、より焼津の人に知っていただきたいし、焼津産のものに自信や愛着を持っていただきたいと思う。
- 若い人が活躍しやすい社会というのは、自然と活力が生まれ、新しいものやサービスが生まれやすい社会だと思う。総合戦略の「若者との共創」というのはとても良いと思った。現代は色々な価値観があるので、1人ひとり、幸せの定義や見つけ方は違うと思う。色々なことをやりたい人がチャレンジできる環境を整えていくことが大事だと思う。様々な思いを反映できる環境があると心強いと思う。
- 自分自身、未熟なところもあるので、親からの助言や年配の方からの一言というのが課題解決のヒントになることが多い。人生の先輩方の持つ経験、知識など、世代を越えて交流すると新しい見え方がお互い見えると思う、そういう交流の場もできるといいと思う。
- これからも活動を続け、焼津の魅力を1人でも多くの方に伝えていきたい。

(松下先生)

- せっかくリーフレットがあるので紹介を。

(服部さん)

- さかなセンターに店があり、今の3代目社長が父で、私は4代目にあたる。揚げ物をメインに色彩豊かなもの、季節のものも販売している。機会があれば召し上がっていただきたい。

(松下先生)

- 焼津の人が、こういう練り物をつくるプロセスや、どんな苦労があるかをどれくらい知っているのか、地域に根ざすには、そういうことを知ってもらう取り組みが必要だと思うが、ど

う考えているか。

(服部さん)

- 焼津市の組合で、揚げ物の会というのが別にあり、一番若いのが会長をしている。揚げ物をつくっている事業者が少なく、どう活用していくか話をしている。どうつくられているかという工場見学や、伝統的な技術のすごさや、苦勞する点など、あまり外に見せない印象があったが、最近は工場を見せる所も多くなってきている。学生にも来てもらえるような環境づくりを進めていきたい。

(松下先生)

- 服部さんが普通だと思っていることも、初めて聞いた人は驚くようなこともある。様々な取り組みの中で多くの人の信頼を得ていくのだと思う。

③働く女性の立場から (NPO 法人 e-lunch 桑原光子さん)

- 「働く女性の立場から」というテーマだが、自分にとっては、子育ての経験が仕事や社会との関わりに活かしているのではないかと思う。
- NPO 法人 e-lunch は、家庭を大事に、仕事も大事にという女性が集まっている団体で、働き方も様々。NPO としてのミッション (使命) は地域の情報化支援と女性の社会参加支援。その中で私は、インターネットの安全利用と啓発活動に携わっている。
- 今や 2 歳児でも、親のスマホやタブレットで動画などを見ている。小中学校になるとそういうものからいじめがあったり、使いすぎで体をこわしたりすることもある。親としては早いうちから対策を打たなければならないということで、学校向けの活動や保護者向けの講座を開いている。今年、160 箇所くらいで行う予定。そのうち 6~70 箇所を担当している。焼津市では予算化し、全ての小中学校で行っている。他にもネットのパトロールを母親目線で行っている。
- 母親として、母親の気持ちを伝える活動もしたいと思っている。子どもが相談できる環境があることが一番、子どもを守れるという話をいつも最後にしている。
- こうした活動を始めて 5 年くらい。子育てが一段落して 15 年くらい前、3 時間から仕事復帰した。焼津市史をつくる事業で資料を保存するという仕事に携わった。子育てを大事にしなが、成長に合わせて勤務時間を長くしていった。過去の歴史に関する仕事をすることで自分の視野が広がった。社会との関わりでは PTA で様々なことを知ることができた。家庭も仕事も両方大事にしたいという思いで仕事をしてきた。
- 仕事復帰したきっかけは、子ども達の会話から。よそのママは働いているのに、という会話。母親が仕事をしている姿を見せることも大切ではないか考えるようになった。
- 現在は、子ども達も成人した。その分、仕事の面が強くなってくと思う。しかし、良心が年々老いてきたので、介護の部分が広がっていくと思う。社会の中で色々な人とふれあえる機会も持ちたい。
- 子育てを通じて色々な人とつながった。仕事では母親目線で子ども達を守りたいという気持ちを伝えたいと思い、インターネットの利用について話をしている。PTA やボランティアで友達が増え、地域活動では、市の都市計画マスタープランの委員に応募したり、来年は地元の女性部の役員で地域に根ざしたりしていければと思う。出会いの中で新しい自分を見つけないかと思う。

- ・私が仕事をする上、生きている上で大切にしていることを考えてみた。素敵な女性をお手本にしたい、出会いを大切にしたい、家庭も仕事もがんばる、そして、自分も大切にしたいということ。

(松下先生)

- ・NPOの活動をしていて、うれしかったことは。

(桑原さん)

- ・ありがたいことに、毎回、感謝をいただく。NPO活動は自分自身も成長させてもらえる。

(松下先生)

- ・日本の地方自治の法制度は、監視で成り立っている。しかし、感謝の気持ちでがんばれるという話があったように、本来はそうだと思う。持続の源泉になるのは、感謝の言葉だったりする。そういうまちになると、みんなががんばれる。このワールドカフェもそういう場づくりの一つだと思う。居場所と出番をつくる。

(4) アドバイザーから：前半のポイント解説とみなさんへの問いかけ

○松下啓一先生によるここまでの話の解説と後半に向けた参加者全員への問いかけ

- ・今日は授業の一環で8人の学生と来ている。焼津にはずっと学生と来ている。11月に相模女子大学の文化祭があり、そこで焼津にもお店を出してもらい、PRしてもらっている。そうすると焼津出身の人が声をかけてきたりする。
- ・今日のまちづくり集会は2回目となるが、全国で2つのまちしかやっていない。他のまちにはできない。しかし、焼津では市民、議会、行政が集まって前向きな話ができる。焼津はもう一つのまちよりも進んだところがあって、それは議会も主催者ということ。そういう面ではトップ。今日の会は、地方創生がテーマで、とても難しい話だが、国の方針で急がざるを得ず、市民が知らなかったりする。だからこの場で一緒になって、それぞれ何ができるかを考えようということ。ぜひ後半は大いに議論し、大いに縁をつくり、大いにヒントを得ていただきたい。

3. 「ひと・ひと・ひと」が『縁』でつながる大ワールドカフェ

【1巡目】話題提供からの気づきや感じたこと・考えたこと

- ①自己紹介（自己紹介カード）
- ②聴き合い：「話題提供」の感想（一番印象に残ったこと、理由）

(班のメンバーの入れ替え)

【2巡目】もっと「住み続けたい焼津」にするには

- ①自己紹介
 - ・前の班から残っている人：前の班の話の感動・気づき
 - ・新しく来た人：焼津のまちを良くするためにやれること
- ②発表準備
 - ・今日話の中で感動したこと
 - ・住み続けられる焼津にしていくための提案など

4. 発表：全体で「イチオシ」を共有し、ホンモノの「地方創生」に向かっていこう

○各班の発表（発表順）

〈1班〉

- ・感動したこと：若者を動員としてではなく、主人公として捉えること。
 - ・これからのこと：焼津に愛着心を持つ教育を。横のつながりができる場所づくり、若者を中心に人を育てる活動。とにかく行動すること。
- （松下先生）若者は動員ではなく資源であり、価値。

〈2班〉

- ・感動したこと：自分たちの学校の生徒だけでなく、他校の生徒も知りたいということ。
 - ・これからのこと：若者には一度外に出て社会を経験し、焼津に戻ってきて欲しい。そのためには吸引力が必要で、郷土の教育、雇用をつくること。
- （松下先生）焼津のことを忘れないようにすること。

〈3班〉

- ・若者中心に活動することが大切ではないか。
- ・商店街の活性化。駅前通りなど、人の流れを戻すための方策。港を利用した活性化。
- ・自慢できる焼津にしていく。

〈4班〉

- ・よそ者の意見を大切にしたい。移住しても前から住んでいる人と関係をつくりやすく。
- ・商店街はきれいになったがシャッター街。継続的・持続的な計画で発展させていく。焼津は始めるのはうまいが持続しないところがある。長い目で見た計画の実行を。

〈8班〉

- ・印象深かったこと：若者の出番と居場所の話。これは若者に限ったことではなく、大人にも必要なこと。居場所をつくりたいと思う一人ひとりが居場所なのではないか。居場所は箱ではなく集う人そのもの。居場所＝縁だと思った。

〈7班〉

- ・感動したこと：みなさんでこの場をつくっていることに感動した。
- ・住み続けたい焼津のために：年齢性別問わないカフェをつくる。地元から離れている人も集まるお祭があるといいな。

〈6班〉

- ・子どもを安心して育てるために、お金の支援よりも市やまちが協力して援助してほしい。働く女性としてもうれしいと思う。

〈5班〉

- ・感動したこと：焼津市民が当たり前と思っている魚河岸シャツを全国にアピールし、焼津の魅力を伝え、好きになってもらうということ。
- ・高校生は大学を県外か県内か迷うが、他の高校も一緒に焼津のいい点を見つけるような学習をして、他校とのつながりをつくると、将来、焼津に戻ってきたいと思ってもらうなど。

〈9班〉

- ・若者と大人の連携がまちづくりに重要で、場所や出番、機会、きっかけが大事。それをどう

つくるかが焼津の課題。

- ・高校生の立場で思ったのは、大学で県外に出ることになっている。進路選択の時、焼津に仕事や大学があるかという、まだ少ないので、どう戻ってこさせるかが重要。

(松下先生) 働く場をどうつくるかが、これからのまちづくりのポイント。

〈10 班〉

- ・若者がもっと住みたい焼津にするには、焼津のいいところをもっと知ってもらうことが大事。
- ・若者が集まれる場所と機会を増やすこと。新しくなった公会堂を若者が活用できていないので、ユースセンターとして活用できないか。港の開発で若者が集まれる場所がつかれるといい。若者が持っているスマートフォンやPCの使い方の講師になれば。
- ・都会や海外に出て行っても、場所や機会があれば、若者は焼津に戻ってこようと思うのではないか。

〈11 班〉

- ・感動したこと：服部さんのお話。揚げたての練り物はおいしい。そういう活動をしてきているのがすごくうれしい。
- ・こうなったらいいな：おいしいものを食べて、忘れられない味になって、焼津の味の思い出が胸に刻まれたらいいな。
- ・実際にやるといいな：駅前の活性化。サテライトキャンパスなど、若者達が集まる場をもっと活用し、色んな人が集まると、また何かが始まるのではないか。
- ・住み続けたい焼津：にぎわい、活気、愛着のあるまち。

〈12 班〉

- ・お願いとしては、練り製品の製造工程がわかるように工場をつくっていただいて、焼津市の外国人等呼べる観光資源になればと思った。

〈16 班〉

- ・市民のお三方のお話がとても良かった。それぞれの視点から焼津を良くしていきたいという気持ちが良く分かった。
- ・若者の居場所づくりについて提案。各公民館に若者が集まる場所、若者開放日をつくる。若者が焼津にいて楽しい。戻ってきたいという思い出づくりができる環境を。

〈15 班〉

- ・班の一押しは、世代を越えたつながり。中高生から社会人まで関わるができるまちづくり。若者の活気やアイデアと社会人の経験や知識をうまく合わせられる機会を継続的につくっていくことが必要と考えた。

〈14 班〉

- ・感動したこと：若者の意見を取り入れるということ。そこから新しいことやサービスや活力が生まれるのではないか。
- ・住み続けたいまちにするには：焼津にはいい面も悪い面もあると思うが、悪い面を悲観的に考えるのではなく新しい発想を入れてリノベーションしていくと住みやすいまちになっていくのではないか。

〈13 班〉

- ・若者の参加による未来の意思決定ということ。それをするためには、若者の居場所が必要。居場所というのは建物だけでなく、時間の共有といった大きな居場所。その確保のためには、スポーツや地域の祭りをより良い場所にしたり。

〈17 班〉

- ・もっとワークショップの時間を長くしたいという意見が出た。
- ・焼津市の人自身が特産品を知り、自慢できる焼津を再発見しようということでもとまった。

〈18 班〉

- ・感動したこと：若者の出番、居場所づくり。出番については、市の若手職員だけでイベントの企画づくりをしている。そういった流れを市民もできるといいと思う。

〈19 班〉

- ・提案：若者の地元愛を育てれば、戻ってくるのではないか。
- ・印象に残ったこと：焼津には日本一がたくさんある。なるとも。そういったものを PR すればいいと思う。

〈20 班〉

- ・感動したこと：意外と若い人も地元で愛着を持っていること。
- ・住み続けたいまちに：仕事と教育の充実が必要。

○松下先生より講評

- ・簡単に感想とまとめを述べたい。総合戦略の話で、焼津に住んでもらうとか、焼津で子育てをしてもらって活性化するなど、色々なことがあったが、ポイントはまちの魅力。魅力のないまちには人は住まない。では、まちの魅力とは何か。ハードも大事だが、ソフトも重要。色んな出番があるとか色んな相談ができるとか、住みやすいまちをつくっていくということ。そうでなければ実現しない。このまちづくり市民集会は 1 つのステップ。
- ・もう一つ大事なことは、成功体験。みんなでやったら楽しい、みんなでやったら平気。そういう成功体験を重ねていく中でどんどん知恵が出てくる。今日はそういう会だったと思う。色々課題もあるかもしれないが、いい集会だったと思う。

○市議会議長から（石田議長）

- ・今日の感想を一言でいうと、「若者って素晴らしいな」「女性って素晴らしいな」ということ。このへんをターゲットにしていけば、焼津市の未来は明るいという感想を持った。
- ・11 月に全国市議会議長会の常任委員会がある。その中で自民党の石破総務会長があいさつの中で言ったことがある。地方創生の失敗の三要素という話。「やりっ放しの行政、頼りっぱなしの民間、無関心の市民」、これが揃うと完全に失敗するということだったが、今日、皆さんの中に入って話をして、焼津市はすべて逆をいっていると。我々市議会も、市当局と協力して、素晴らしい焼津をつくっていきたいと思うので、皆さんの協力をお願いしたい。

5. 閉会（クロージング）

○閉会あいさつ（松永哲雄 まちづくり市民集会 実行委員）

- 本日は、中野市長をはじめ市職員の方々、市議会議員の方々、そして多くの市民の皆さんにご参加いただき、まさに行政、議会、市民という三者が一堂に会し、わたしたちのまち焼津について語っていただいた。特に市民の代表として若者の立場から土肥さんと岡村さん、地元企業の若手経営者の立場から服部さん、子育てをしながら働く女性の立場からは桑原さんに、本当の市民の生の声を聞くことができた。
- また、大ワールドカフェでは、時間がなかったが、それぞれの方々に活発に意見を述べていただいたと思う。松下先生には「出番、居場所、縁」という簡潔なアドバイスをいただいた。今後は、今日話し合った「もっと住みたい焼津」にするために、私たち市民、行政、議会の三者の立場でさらに推し進めていけばよいということを感じた。
- 年末の押し詰まった時期に多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。